

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内の景気は、厳しい状況が続いているが、悪化のテンポは緩やかになっている。

最終需要の動向をみると、公共投資は前年を上回ったが、住宅投資が前年を下回って推移しており、設備投資も製造業を中心に大幅に減少している。この間、個人消費は弱い状況が続いている。

こうした中、生産は、在庫調整の進捗などから減産を緩和する動きが広がっているが、雇用情勢は厳しい状況が続いている。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、所得環境の悪化や雇用調整が続く中で、弱い状況が続いている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、主力の衣料品が低調なうえ、身回品や雑貨も大きく落ち込んでおり、前年を下回って推移している。

スーパーでは、内食回帰の動きなどから、食料品はほぼ前年並みで推移しているが、衣料品や身回品が低調なことから、全体では前年を下回って推移している。

(家電量販店売上高)

家電販売は、エコポイント対象商品である薄型テレビや冷蔵庫は前年を上回っているものの、パソコンや携帯電話が伸び悩んでいるうえ、7月の気温が低目に推移したためエアコンが前年を割り込んでおり、全体でも前年を下回る動きとなっている。

(新車登録台数)

7月の新車登録台数は、普通乗用車、小型乗用車が前年を上回ったものの、貨物車が依然大きく落ち込んでおり、全体では前年比 3.2%と12ヶ月連続の前年割れ。

(2) 公共投資

7月の公共工事請負金額は、国からの発注が本格化しており、2ヶ月連続して前年を大幅に上回った。

(3) 住宅投資

6月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲とも前年を割り込んでおり、全体では5ヶ月連続の前年割れ。

(4) 設備投資

2009年度の設備投資計画(6月短観調査結果*)は、受注の低迷や収益の悪化を背景に、製造業が前年度を大きく下回っているほか、非製造業も前年度を下回る計画となっている。

*09年度計画・前年度比：製造業 52.8%、非製造業 5.7%、全産業 47.8%

3. 生産動向

生産は、在庫調整の進捗などから減産を緩和する動きが広がっている。

(電子部品・デバイス)

電子部品・デバイスは、在庫調整の進捗や海外携帯メーカー向けの需要増加から、減産を緩和している。

(輸送機械)

完成車、自動車部品とも、在庫調整の進捗などから、減産を緩和している。

(一般機械)

半導体製造装置や工作機械は、受注の低迷から大幅な減産を継続している。建設機械部品は、在庫調整の進捗などから、減産をやや緩和している。

(その他)

鉄鋼の線材は、自動車メーカーの減産緩和を受けて、徐々に減産を緩和している。また、窯業・土石、木材・木製品は、民間工事の減少から減産を継続している。この間、食料品は、ほぼ横這いで推移している。

4. 雇用・所得の動向

6月の有効求人倍率(季節調整値)は、0.32倍(前月:0.32倍)と前月比横ばい。

一方、新規求人倍率（同上）は、0.63倍（前月：0.66倍）と前月比低下した。

この間、雇用者所得は、所定外給与が大幅に減少しているうえ、常用雇用者数も前年を下回っていることから、前年比減少幅が拡大している。

5. 企業倒産

7月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数が17件（前月6件、前年同月9件）、負債総額が51億10百万円（前月27億83百万円、前年同月15億43百万円）と、前月比、前年比とも大幅に増加した。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、個人預金が堅調なうえ、公金預金も地方交付税交付金の歩留まりなどから増加しているため、前年を上回って推移している。

貸出動向は、住宅ローンが頭打ちとなっているものの、地方公共団体向けが増加していることなどから、前年を上回って推移している。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） http://www3.boj.or.jp/morioka/
